

<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>>(2003.6.2)

失踪者リストの追加・訂正

公開希望の方で 30 日に発表されたリストから漏れていた方がありました。お詫びして追加致します。なお、この樹下さんも他の方々と同様拉致の可能性を完全には排除できないという段階ですので予めご理解下さい。

氏名 樹下秋男(きのした あきお)

性別 男性

生年月日 昭和 11 年(1936) 10 月 8 日

失踪日 昭和 30 年(1955) 4 月 7 日 当時 18 歳

当時の住所 京都市内

当時の職業 製麺所の住み込み店員

身長 164 ~ 5 センチ位

失踪の状況 勤務先に「実家に行ってくる」との書き置きを残して失踪。実際には実家には行っていない。以後全く情報なし。

報道関係者等でご家族とコンタクトしたい方、写真のご入り用な方には連絡先をお知らせしますのでお名前・所属・使用目的を記載の上「樹下さん連絡先通知希望」「樹下さん写真送信希望」と書いてこのメールへの返信でご連絡下さい。

<<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>>(2003.6.7)

加藤久美子さん、古川了子さんの対応について調査会から救う会に要請

本日午後、東京港区の友愛会館で開催された救う会全国協議会幹事会で、荒木代表より佐藤勝巳全国協議会会長に下記の要請を行いました。これを受けて幹事会では2人を拉致被害者のリストに加えることを決定しましたのでお知らせします。

平成 15 年 6 月 7 日

北朝鮮に拉致された日本人を
救出するための全国協議会
会長 佐藤勝巳殿

特定失踪者問題調査会
代表 荒木和博

加藤久美子さん、古川了子さんの拉致被害者としての対応のお願いについて

拝啓、事態急進展の中、皆様の精力的な活動に心より敬意を表します。

さて、私共は拉致の可能性のある失踪事件の調査を続ける過程で拉致事件が極めて広範囲に行われたものであることを実感しており、現在法律家の会とも連携しながら一刻も早い真相究明を行うべく微力ながら努力を続けております。現在まで私共が入手した失踪者情報は人数にして330人余にのぼり、このうち140人余が公開されております。

私どもが失踪者として公開している方々のうち、ご案内の通り昭和45年に北九州市で失踪した加藤久美子さんと昭和48年に市原市で失踪した古川了子さんについては安明進氏の詳細な証言があり、拉致事件と認定してさしつかえないものと考えます。私どもは今後もさらに日本国内での2人の足取りや関係者の割り出しなどの努力を行ってまいります。北朝鮮にいたことが確実である以上、救う会としても寺越昭二さん、外雄さん、武志さん、福留貴美子さん、小住健蔵さん、田中実さんらと同様拉致被害者のリストに加えていただき、政府に対しても拉致認定を求めていただきたくお願い申し上げます。

2人の状況などについては3月30日の全国協議会幹事会に提出した通りですが念のため概略を別紙の通り添付します。

敬具

(別紙)加藤久美子さん、古川了子さんについて

加藤久美子さん(昭和23-1948年生・昭和45-1970年8月8日失踪)

・朝、妹と一緒に北九州市の家を出て10分くらい離れた旧西鉄路面電車の大倉電停で別れる。その後消息不明。いつも通りの服装であった。週末に編み物の先生とお茶会に行くので着物を出しておいてという話をしていた。

<安氏のコメント>

1988～90年、金正日政治軍事大学内で横田めぐみさんと一緒にいた女性だと確信する。当時年齢が30代中盤以後に見え、パーマをかけていて特別な印象の着衣はなかったと記憶している。

それより正確に言えば当時彼女達を見たとき写真の女性よりは横田めぐみさんにより関心があり、彼女だけを見ていたので写真の女性については特別な関心はなかった。しかし横田めぐみさんに関心を持って眺めるとき十余回も横田めぐみさんと並んで座って話をしていたのが記憶に残っている。当時彼女は158センチ以下の身長だったと記憶している。彼女の職業はもちろん横田めぐみさんをはじめとする大学内の他の日本人と同様で対日工作員に日本語を教える日本語教官だった。

古川了子さん（昭和30-1955年1月1日生・昭和48-1973年7月7日失踪）

・当日午前中に美容院に行って午後から母親と浴衣を買いに行く予定をしていた。了子さんは母親が知らない間に家を出ていたが、美容院に了子さんからTELがあり『今日の美容院はキャンセルしたい出かけることができましたのでうちの母親に浴衣を買いに行けなくなると伝えて下さい』と言った。それ以来行方不明。平成14年12月6日、姉の竹下珠路さんが訪韓し安明進氏と面会。安氏は竹下さんを見て自分の見た女性が古川さんであるとの確信を強めた。

<当時の状況について昨年12月に安氏から聴取した内容>

1991年の9月ごろ、時間は5～6時頃だったと記憶している。当時自分は915病院に入院していた。915病院とは朝鮮労働党作戦部に所属する病院で、工作人員や被拉致者などの治療をするだけでなく、麻薬や毒薬の製造や改良も行うところである。敷地の中には100～150の施設があった。場所は平壤北方、順安空港から平壤市内に向かう道から1キロも離れていない。

安氏はこの日、退屈なので練習用の通信器材を持ってきて練習しようと、約6キロ離れた学校（金正日政治軍事大学）まで歩いて行った。途中病院の道を通っていくと見つかる可能性があると思い、道のないところを通って行った。そこから通常の道を渡って政治軍事大学の方に行こうとしたとき、木の陰にいた古川さんと思われる女性に見られた。あとで通報されるといけないと思い、通報しないように頼もうと思って後ろをつけて行って声をかけた。向き合っていたのは5分位だったと記憶している。自分の言葉にうなずいたりしていたが、朝鮮語を理解していないようにも見えた。自分が姿を記憶していたのは金正日政治軍事大学にいたのがほとんど男性で、女性に対しては関心が強かったから。

その女性は入院患者が着る服を着ていた。病院の夕食時間は7～8時だから、おそらく中央病棟に治療に来た帰りではないかと思う。食堂は共通だが食べる場所は厳格に区別されており、お互いが顔を合わせることはない。日本人のいた病棟と自分のいた病棟の距離は200～300メートルで、建物は見えたが人は見えなかった。道は大きく迂回して通っていた。後で看護婦に聞いたら、彼女が日本人で、胃潰瘍で入院していると言っていた。日本人化のための教員であれば、学生に普段接しているから対応にはなれているはずだが、そうは見えなかった。北朝鮮では60年代から70年代にかけて、「日本革命」をめざしたことがあり、「日本人村」を作ったことがあった。そこにいたのかも知れない。

